

藤田紘一郎著 Koichiro Fujita

残念な「オス」という生き物

Forest
2545
Shinsyo

まえがき

かつて私は、寄生虫の一種であるサナダムシを6代にわたり、15年間自らの腸の中に飼うという実験を行いました。

その理由は、寄生虫によるアレルギー抑制の機序（メカニズム）を明らかにし、それを証明したかったからです。医学界からの反響や反発はとても大きかったのですが、このことから私は「寄生虫博士」と呼ばれるようになりました。

初代のサナダムシには、サトミちゃんという名前をつけました。2代目はヒロミちゃん、3代目がキヨミちゃん、4代目がナオミちゃん、5代目がカツミちゃん、最後の6代目がホマレちゃんです。

よく、「サナダムシたちの名前の由来は何ですか?」「かつて先生が好きだった女の子の名前ですか?」「ずいぶんいらっしやいますね……」などと聞かれますが、残念ながら違います。

答えは、サナダムシは雌雄同体なので、イチローとかハナコのような、性別が明確に分かれているような名前はつけられないのです。つまり「ゴウヒロミ」のように、男でも女でも使える名前を選んで命名したのでした。

サナダムシなどの寄生虫をはじめ、カタツムリ、ナメクジ、ミミズ、アメフラシなど、生物界を見渡すと、雌雄同体の生き物はけっこう多く存在しています。雌雄同体の中にも、オスになったりメスになったりと、ひとつの身体で自由自在に性を転換できる生き物もいるのです。

このように、オスとメスの個体が必ずしも存在しなくても繁殖できる生物がいる一方で、人間のよう**に「男」と「女」の性差を有する生物がいるのはなぜでしょう。**

私はこのことを昔から不思議に思っていたのですが、みなさんは考えてみたことがありますか？

自らの若い頃を思い出しても、女性に関しては、思いどおりにいかなかった苦い経験ばかりです（端的に言えば、女性にモテる男友達を遠くから指をくわえて見ていただけという事です）。

好きな異性のことを考えていると、夜も眠れなくなるし、カッコつけなければなら
ないし、オシャレもしなければなりません。失恋をしてしまえば、悲しくて何日も落
ち込んだり、食欲がなくなったり過食したりと、精神的に大打撃を受けます。悩みや
面倒が多くなって煩わしいはずなのに、この世には「男」と「女」が存在するのです。
これらのことをいくら考えても一向に答えは出てきませんが、改めて生物界
から「男」と「女」を俯瞰ふかんすることで、見えてきたことがありました。

それは、**性差があることで、いろいろな物語が生まれてくることです**。私たち人間
でも、男女のお付き合いや恋愛の駆け引きなどの話は、雑誌やバラエティー番組など
でも多く取り上げられるように、みんなが大好きなトピックです。

しかし人間に限らず、昆虫や鳥類や動物でも、オスとメスの間に繰り広げられる不
思議な物語があるので。

特に「オス」に注目してみると、何と残念な生き物なのだと思わせる物語がたくさ
ん出てきます。単独では子孫を残すことができない「オス」の必死な行動や悲哀の先
には愛おしさがあり、やはり「男」と「女」の存在は、地球上の生物が進化するうえ

での素晴らしい戦略だったと思わざるを得ないのです。

ここ最近になって、やっと多様性について議論される世の中となってきました。性別はどうして存在するのだろう、という疑問や好奇心がそれぞれの性差の存在を認めることにつながり、多様性を受け入れるきっかけになるのではないかと感じています。

本書がその一端にでもなれば、著者として大変嬉しく思います。

第1章 生物界は「残念なオス」だらけ!?013

男女の役割が激変する日本の社会 014

なぜ、男は自殺率が高いのか? 015

もともと動物であったことを忘れてしまった人間 017

完璧を目指すよりもまず終わらせる 019

ひたすらモテるために美しく進化したオス 022

「騙したものの勝ち」のオスとメスの熾烈な世界 025

メスのわがままに翻弄される生物界のオスたち 028

すべてのオスは食料品である。 033

生物の世界でも「隣の芝生」は青い 036

他人の情事に燃えるメスと萎えるオス 039

モテるものとモテざるもの違いとは? 041

モテないオスの姑息な対抗手段 044

ボクの遺伝子だけ残してくれませんか？ 046

芸術はモテるためにあるのか？ 049

「芸術的センス」と「セックス」の関係 052

性淘汰における勝者と敗者 055

モテるためなら命も削る 057

男が永遠に女心を理解できないワケ 060

女性ホルモンにまつわる驚きの研究 063

成功者はみな「低テストステロン体質」 065

男がハイヒールに惹かれる生物学的理由 068

変顔だからこそモテることもある 071

4000人斬りミック・ジャガーが生涯モテモテなワケ 073

強い子を産むためにイイ男は欠かせない 077

モテ男の末路——モテることはトクなのか、ソンなのか？ 079

「自分を棚上げする男」と「客観的でしたたかな女」 081

「一夫一妻制」が人間を生んだ？ 086

人類はなぜ一夫一妻の道を選んだのか？ 089

自分の子どもが殺されなかったための秘策 091

イクメンが一夫一妻制を生んだ説 092

結婚制度でがんじがらめになった現代人 094

少子化問題の解決策を動物たちに訊いてみよう 097

「おしどり夫婦」は全然「おしどり」じゃなかった 100

コウノトリの三角関係 102

もともとは「障害」を意味した「絆」という言葉 106

性器の常識を覆したトリカヘチャタテ 109

『とりかへばや物語』が教えてくれること 112

便利で都合のいい「二分法」から脱しよう 114

その「男らしさ」「女らしさ」は正しいですか？ 117

現代社会は「恋愛強迫症」 119

第3章 オス不要論

「清潔志向」が生物をメス化させる 126

精子減少の謎を解く 129

人類は「オス」を捨て去るのか 132

ひたすら求愛し続けたオスの非情な運命 135

あまりにも悲惨すぎるオスたち 138

考えられないほど残酷なトゲオオハリアリの最期 141

なぜ男が不要になってきたのか？ 143

もうすでにオスという性を失ってしまった生物たち 145

性転換も自由自在なダルマハゼ 147

生物界のアンドロギュノス(両性具有)たち 148

恋するゾウリムシ 151

第4章 残念すぎる「人類」という生物——オスもメスもみーんな仲良く絶滅する説…… 155

同一規格化された家畜はまっさきに絶滅する 156

こうしてサナダムシは絶滅した 159

『レッドデータブック』に寄生虫の名を 161

生物の歴史は絶滅の繰り返し 163

大量絶滅の後に起こること 165

もし人間がいなくなったら、地球はどうなるか？ 167

もし人間がいなくなったら、地球はどうなるか？ その② 169

豚なら4頭、サンマなら3041匹——人間は年間どれくらい食べるか 172

イースター島から学ぶ絶滅のシナリオ 174

“世界の終わり”まであと2分 178

第5章 人類の絶滅を回避する意外な方法

チンパンジーとヒトの遺伝子は99%同じ 182

人間より優れているチンパンジーの記憶能力 185

言葉を手に入れた人間が失ったもの 187

脳の容量オーバーが招いた結果 190

言葉を得た人間はどこへ向かうのか 191

チンパンジーは絶望しない 194

「同感」「同情」「共感」はどこが違うのか？ 198

ホーキング博士のメッセージが教えてくれること 202

じつは「残念なオス」こそが人類絶命回避のキーパーソンだった 206

あとがき..... 208

装丁・本文デザイン.....河村誠

カバーイラスト・本文イラスト.....荻野公平

DTP.....キャップス